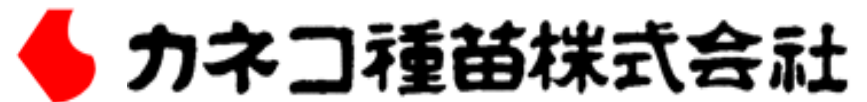


2020年5月期決算の状況

2020年7月

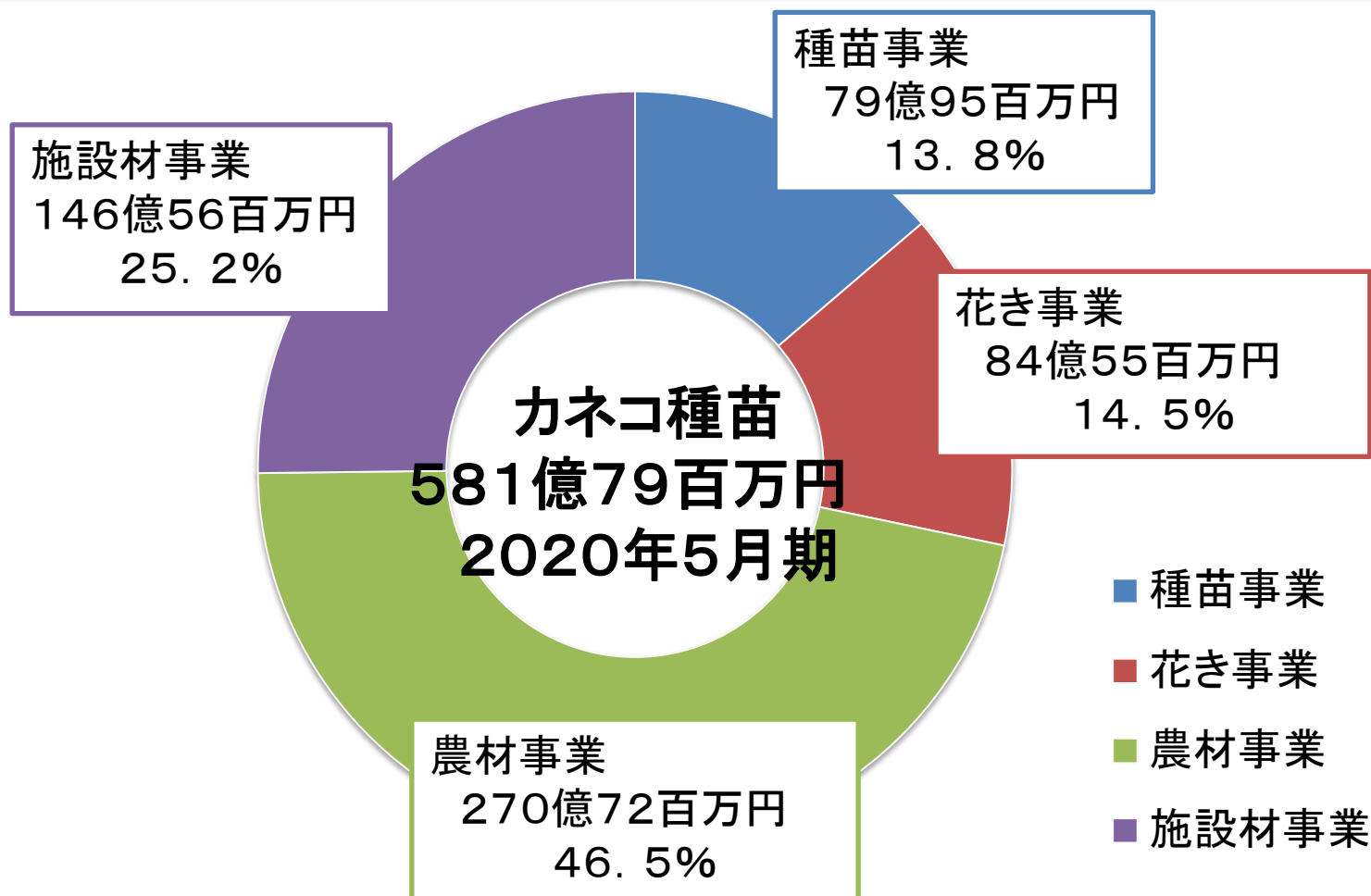


<http://www.kanekoseeds.jp/>

証券コード: 1376

決算概況

連結売上高のセグメント別構成比



決算ハイライト

【売上高】

- ・ 581億79百万円(前年同期比0.7%減)
- ・ 種苗事業や花き事業の販売減少により減収

【営業利益】

- ・ 14億87百万円(前年同期比16.7%減)
- ・ 種苗事業の低迷や、施設材事業で養液栽培プラントの受注減などにより、営業利益が減少

【経常利益】

- ・ 16億13百万円(前年同期比15.0%減)
- ・ 営業利益の減少に伴い経常利益も減少

【当期純利益】

- ・ 11億22百万円(前年同期比12.6%減)
- ・ 経常利益の減少に伴い当期純利益も減少

連結損益計算書

(単位:百万円)

	18／5月期	19／5月期	20／5月期	前期比
売上高	59, 102	58, 592	58, 179	△412
営業利益	1, 747	1, 785	1, 487	△298
(営業利益率)	(3. 0%)	(3. 0%)	(2. 6%)	—
経常利益	1, 891	1, 899	1, 613	△285
(経常利益率)	(3. 2%)	(3. 2%)	(2. 8%)	—
当期純利益	978	1, 284	1, 122	△161
(当期純利益率)	(1. 7%)	(2. 2%)	(1. 9%)	—
1株当たり純利益(円)	83. 35	109. 39	95. 95	△13. 44

連結貸借対照表

(単位:百万円)

		18／5月期	19／5月期	20／5月期	増減
	流動資産	36, 305	36, 321	37, 484	1, 162
	固定資産	8, 690	9, 204	9, 308	103
	資産合計	44, 995	45, 526	46, 792	1, 266
	流動負債	24, 566	24, 182	24, 648	465
	固定負債	1, 706	1, 724	1, 742	18
	負債合計	26, 272	25, 907	26, 391	483
	純資産合計	18, 722	19, 619	20, 401	782
	負債純資産合計	44, 995	45, 526	46, 792	1, 266
	自己資本比率	41. 6%	43. 1%	43. 6%	+0. 5%

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	18／5月期	19／5月期	20／5月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1, 516	892	589
投資活動によるキャッシュ・フロー	△658	△869	△264
財務活動によるキャッシュ・フロー	△307	△362	△488
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	2	1
現金及び現金同等物の増減額	542	△337	△162
現金及び現金同等物の期末残高	4, 911	4, 573	4, 411

営業活動によるキャッシュ・フロー	売上債権が10億95百万円増加したものの、税金等調整前当期純利益16億24百万円の計上などにより、5億89百万円の資金を獲得いたしました。
投資活動によるキャッシュ・フロー	有形固定資産の売却により1億37百万円の収入があったものの、有形固定資産の取得に3億66百万円消費したことなどにより、2億64百万円の資金を使用いたしました。
財務活動によるキャッシュ・フロー	配当金の支払3億28百万円や自己株式の取得1億5百万円などにより4億88百万円の資金を使用いたしました。

セグメント別業績

セグメント別主要取扱商品

■ 種苗事業

野菜種子

牧草種子

ウイルスフリー苗及び種イモ

造園・法面工事

■ 花き事業

花苗、家庭菜園用野菜種苗

球根、花種子

家庭園芸用資材

■ 農材事業

農薬

被覆肥料

■ 施設材事業

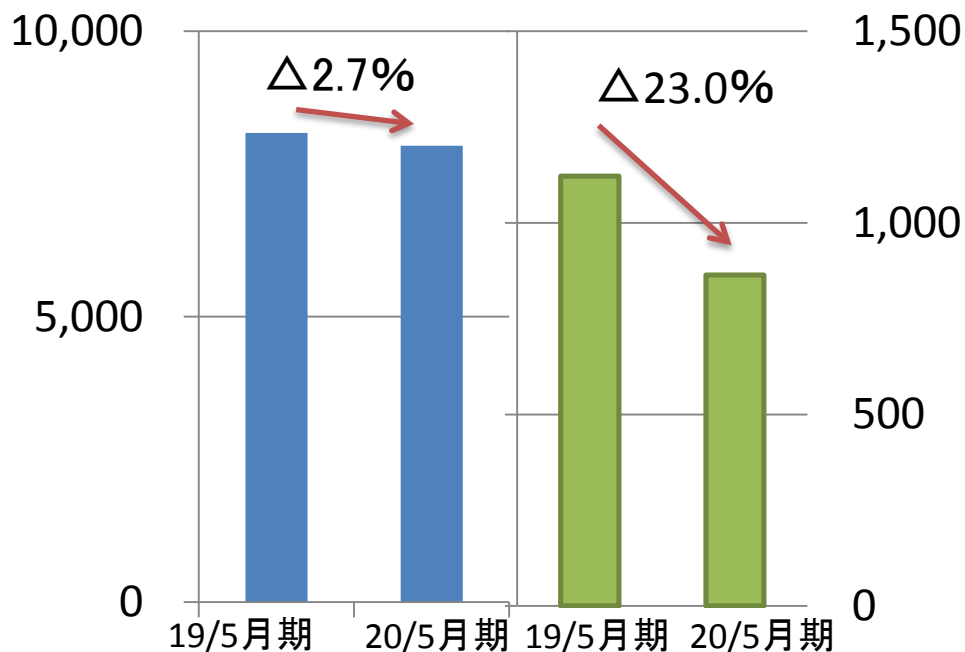
農業資材

養液栽培プラント

温室

種苗事業

(売上高) (セグメント利益)



(単位: 百万円)

	19/5月期	20/5月期	増減率
売上高	8,219	7,995	Δ2.7%
セグメント利益	1,121	863	Δ23.0%

【セグメント事業内容】

野菜種子や牧草種子、ウイルスフリー苗及び種イモの委託生産・仕入・販売、また主に群馬県内において造園・法面工事の設計・施工を行っております。

【概況】

『売上高』

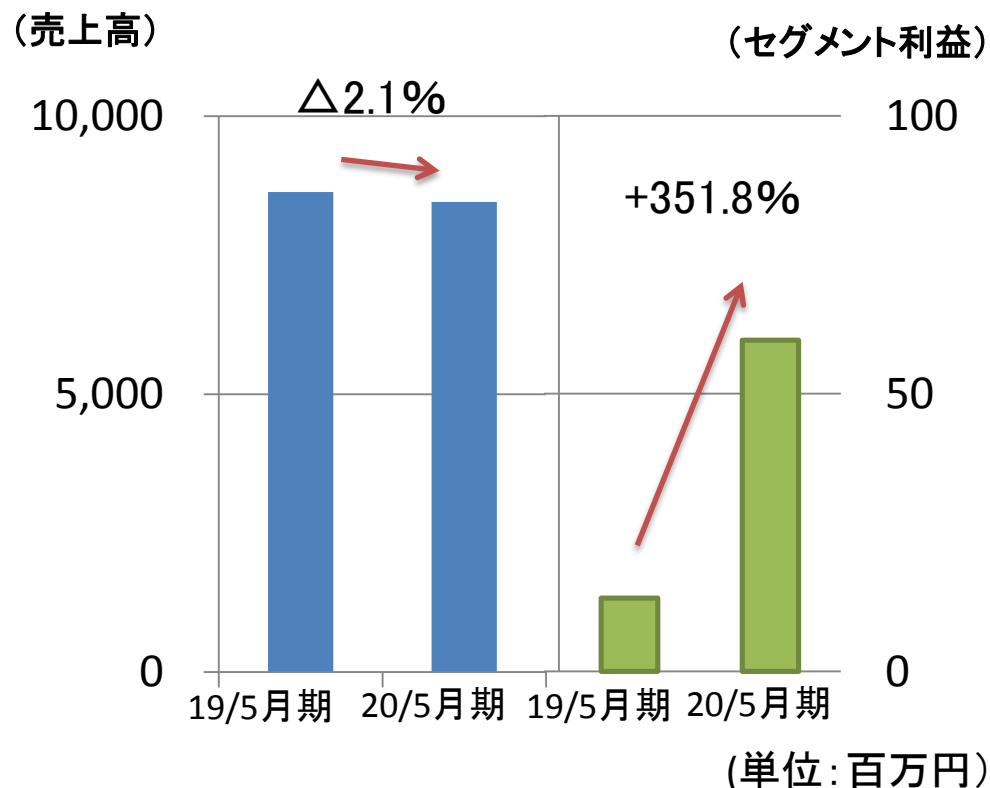
- ・ 牧草関係で地道な普及活動による飼料用作物種子、ラグビーワールドカップの影響によるスポーツターフ用芝種子がそれぞれ販売増となったものの、野菜種子関係でカボチャ種子の輸出が伸長したものの、コロナ禍の影響で輸出先国の物流が滞ったことなどからキャベツ種子の輸出が停滞、ニンジン種子は輸出・国内販売ともに低迷し減収

『セグメント利益』

減収に加え、以下の要因で減益

- ・ 種子生産委託先である新興国の人件費上昇にスライドして種子生産コストが上昇
- ・ 需要者からの高品質種子志向に対応し種子の選抜廃棄を行ったことなどにより費用が増加

花き事業



【セグメント事業内容】

家庭園芸愛好家向けに花き園芸用品や家庭菜園向けの野菜種苗等の販売を行っているほか、営利栽培農家向けに自社開発品種の販売を行っております。

【概況】

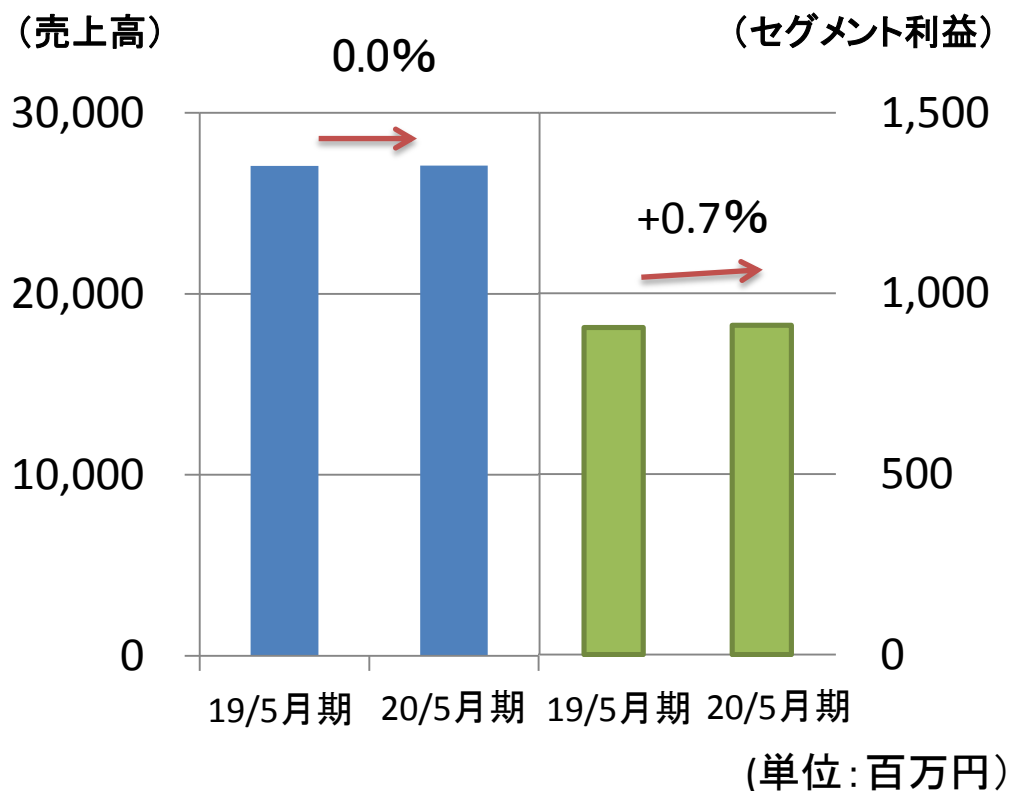
『売上高』

- ・ 年度終了間際にはコロナ禍の外出自粛時でも自宅で楽しめる家庭菜園需要が伸長したものの、全般的には家庭園芸用品の需要低迷
- ・ 主要販売先の売上不振

『セグメント利益』

- ・ 上記のとおり減収となったものの、業務の効率化に努めたことなどで費用を削減し増益

農材事業



【セグメント事業内容】

農薬の販売を中心に被覆肥料等の販売も行っております。

【概況】

『売上高』

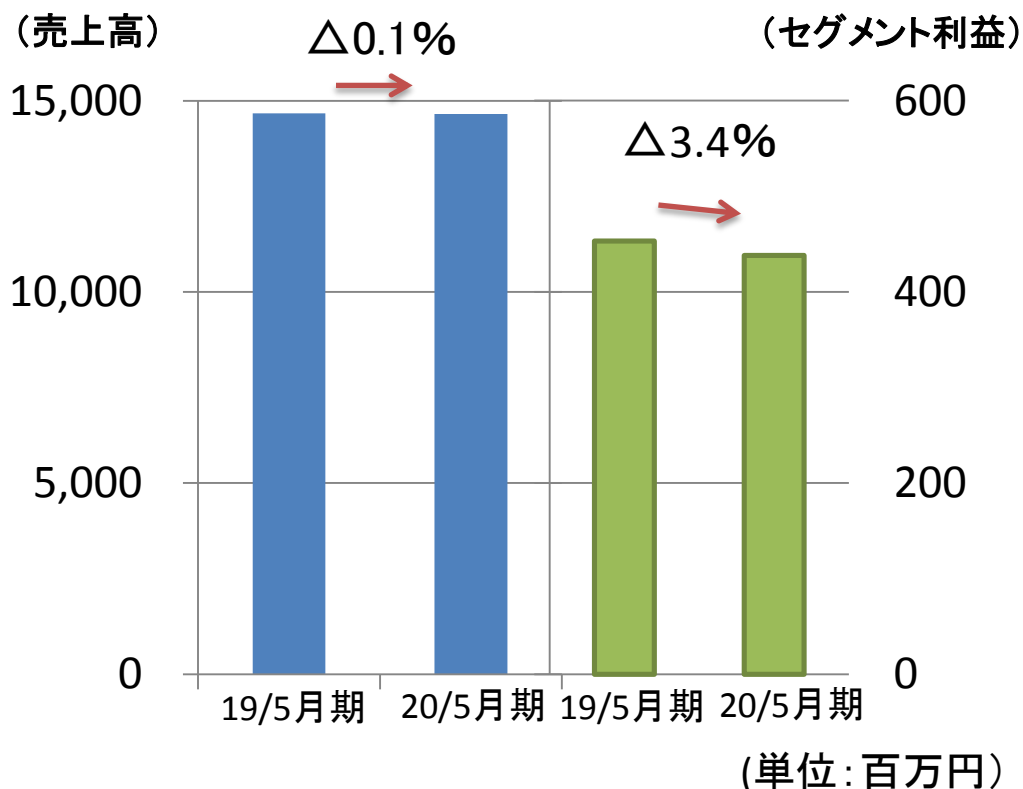
以下の要因により前期並

- ・ 青果安に伴い農家のコスト削減意識の高まりが農薬散布機会の減少につながり、土壌消毒剤の販売が減少
- ・ 除草作業の軽減に効果的な茎葉除草剤が、高齢化や省力化志向に伴い販売が増加
- ・ オリジナル被覆肥料の普及による販売増

『セグメント利益』

- ・ 微増益

施設材事業



【セグメント事業内容】

農業資材を仕入れ販売しているほか、当社独自の養液栽培プラント及び温室を設計・施工し、販売しております。

【概況】

『売上高』

以下の要因により微減収

- ・ 農業用施設に対する台風復旧需要により関東地区で販売が増加
- ・ 前期東海地区で発生した台風復旧需要の反動減
- ・ 夏の天候不順による遮光・灌水資材、暖冬による保温資材がそれぞれ販売減
- ・ 青果安に伴う農家の設備投資意欲の減退から養液栽培プラント関係が受注減

『セグメント利益』

- ・ 3.4%の減益

2021年5月期見通し

通期連結業績見通し

(単位:百万円)

	19/5月期	20/5月期	21/5月期 計画	増減	増減率 (%)
売上高	58, 592	58, 179	59, 500	1, 320	2. 3
営業利益	1, 785	1, 487	1, 550	62	4. 2
経常利益	1, 899	1, 613	1, 650	36	2. 3
当期純利益	1, 284	1, 122	1, 150	27	2. 5

売上高	コロナ禍の影響による国内農家の作付の減少や輸出の滞りなどの懸念材料はあるものの、以下の増加要因により、売上高595億円で前年同期比2.3%増収を見込んでおります。 ・ 種苗事業で、キャベツ種子の輸出回復やカボチャ種子の国内販売の増加 ・ 施設材事業で、前期からの台風復旧需要が継続することや、前期低迷した遮光・灌水資材及び保温資材の需要回復による販売増 ・ 農材事業もシェアアップによる堅調な推移
営業利益及び経常利益	上記売上高の増加により、営業利益15億50百万円、経常利益16億50百万円で増益を見込んでおります。
親会社株主に帰属する当期純利益	営業利益及び経常利益の増加により11億50百万円で前年同期比2.5%の増益を見込んでおります。

中期経営計画の進捗

中期経営計画の進捗状況

中期経営計画

(単位:百万円)

	20/5月期計画	21/5月期計画	22/5月期計画
売上高	59, 500	60, 700	62, 000
営業利益	1, 800	1, 850	1, 900
経常利益	1, 900	1, 950	2, 000
当期純利益	1, 350	1, 370	1, 400

実績、業績予想

(単位:百万円)

	20/5月期実績	21/5月期予想	22/5月期
売上高	58, 179	59, 500	—
営業利益	1, 487	1, 550	—
経常利益	1, 613	1, 650	—
当期純利益	1, 122	1, 150	—

中期経営計画（初年度）と実績の乖離要因

売上高

以下の要因により、売上高について計画が未達成となりました。

種苗事業	ニンジン種子が輸出・国内販売ともに低迷し、タマネギ・エダマメ種子の国内販売の減少、コロナ禍の影響で輸出先国の物流が滞ったことなどからキャベツ種子の輸出が停滞するなどして計画を下回りました。
花き事業	家庭園芸用品の需要低迷や主要販売先の売上不振により計画を下回りました。
農材事業	青果安に伴い農家のコスト削減意識の高まりが農薬散布機会の減少につながり、土壌消毒剤の販売が低迷するなどして計画を下回りました。
施設材事業	青果安に伴う農家の設備投資意欲の減退による養液栽培プラント関係の受注減などにより計画を下回りました。

中期経営計画（初年度）と実績の乖離要因

営業利益、経常利益、当期純利益

以下の要因により、利益についても計画が未達成となりました。

- 売上高の低迷による売上利益の未達
- 減収に加え、以下の要因で減益
 - ・ 種子生産委託先である新興国の人件費上昇にスライドして種子生産コストが上昇
 - ・ 需要者からの高品質種子志向に対応し、種子の選抜廃棄を行ったことなどにより費用が増加
 - ・ オリジナル品である養液栽培プラントの受注低迷により利益率が低下

中期経営計画(2年目)の展望

- 中期経営計画で掲げた売上・利益計画の達成は困難
- 以下の施策等で地道な業績伸長を想定
 - ・ 種苗事業で、キャベツ種子の輸出回復やカボチャ種子の国内販売の増加を見込む。
 - ・ 施設材事業で、前期からの台風復旧需要が継続することや、前期低迷した遮光・灌水資材及び保温資材の需要回復による販売増。
 - ・ 農材事業もシェアアップによる堅調な推移を見込む。

事業環境と事業戦略

従前からの事業環境に大きな変化はなく、また、今年度は中期経営計画2年目にあたり、前期からの事業戦略に変更はありません。

事業環境

農業を取り巻く環境

国内

マイナス要因

食料消費の低迷・就農者の高齢化
気象条件の変化による農産物生産の不安定化
家庭園芸分野での需要低迷

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・農産物輸出の増加

海外

急激な人口増加による食料需要の拡大

新興国の経済発展による所得上昇による肉食の増加やそれに伴う飼料の需要拡大・高品質な野菜等への需要増

世界的な気象変動による作柄の不安定化

当社グループの戦略

当社グループの経営基本方針

ハイテクと国際化

農業関連の総合企業

グリーン事業のトータルプランナー

当社グループのセグメント別事業戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

● 種苗事業

当社グループの強み

(野菜種子)

幅広い野菜品種の育種による遺伝的資源と種子検定技術の蓄積

(栄養繁殖系野菜)

民間企業では取り組む企業が少ない交雑育種による品種(シルクスweetなど)改良技術

(牧草種子)

世界初のF1品種を育成した研究開発力



事業戦略

- ✓ 種苗の生産ロケーションの拡充に加え、生産効率を高め、高品質かつ安定した種苗供給体制を構築
- ✓ 国内外の他社種苗メーカーとの共同開発やOEM供給による販売推進
- ✓ 販売ルートを確立したアフリカ・南米市場での販売強化と、東欧での新規市場の開拓
- ✓ 注目されている新技術であるゲノム編集技術の可能性探究



当社グループのセグメント別事業戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

●花き事業

当社グループの強み

- ・当社オリジナル花苗・種子（トルコギキョウ、カーネーションなど）の育種開発技術
- ・家庭園芸用品のサプライヤーとして業界トップクラスのシェア
- ・種苗および園芸用資材をトータルプランニングできる総合力



事業戦略

- ✓ 成長を続ける“eコマース”分野への営業活動を強化し、販売チャネルの多様化を促進
- ✓ 高付加価値商材である当社オリジナル花苗・種子の、海外生産および海外マーケットへの販売を強化



当社グループのセグメント別事業戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業
グリーン事業のトータルプランナー

● 農材事業

当社グループの強み

- ・主要卸売商品の“農薬”はフルラインで揃い、様々な顧客ニーズに即答できる提案力
- ・国内トップシェアの販売実績に伴う高いコスト競争力



事業戦略

- ✓ 国内でまだまだ当社シェアが低い農業大産地への営業強化
- ✓ 成長を続ける“eコマース”企業との連携による販売拡大



当社グループのセグメント別事業戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

● 施設材事業

当社グループの強み

- ・「養液栽培プラントおよび温室」(ハード面)に加え、「栽培技術支援」(ソフト面)でも種子・肥料・農薬など総合的なサポートが可能
- ・農業資材卸では全国24拠点の支店網によるスピーディな物流機能とサービス体制



事業戦略

- ✓ 大型生産者・生産法人向けに、栽培の自動化やIoT関連技術を有する企業との連携強化
- ✓ 農業用ハウス内の環境制御やICT(情報通信技術)の関連商材の販売強化
- ✓ 主に東アジアへの養液栽培プラントの輸出を推進
- ✓ 減反政策終了による施設園芸への転換需要の獲得



カネコ種苗株式会社概要

会社名	カネコ種苗株式会社
所在地	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
創 立	1947年6月
代表者	金子 昌彦
資本金	14億91百万円(2020年5月末現在)
上 場	東京証券取引所 市場第一部
発行済株式数	11,772千株(2020年5月末現在)
従業員数	618名 (連結対象会社合計 667名) (2020年5月末現在)
グループ会社	3社(連結子会社 2社・非連結子会社 1社) (2020年5月末現在)
問い合わせ先	財務部 専務取締役財務部長 長谷 浩克 E-mail: h-hase@kanekoseeds.jp TEL: 027-251-1619 FAX: 027-290-1056